

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 我が国では、日本語という国語を一種の「拘束」とみなし、場合によっては外国語への「脱出」を良しとするような運動やら思想やら気分やらが、目立った形で存在し続けている。

近年のビジネス界における「英語化」推進運動は、グローバル化が進む中でより効率的に金を稼ぐため、世界で最も流行っている言語を使うべしと主張するものだ。一方、例えば戦後すぐに志賀直哉が国語の「フランス語化」を主張していたが、これはもつとロコツな日本語蔑視に基づくものであった。日本語こそが我々の文化の発展を阻んでいるのであり、初代文部大臣の森有礼が国語の「英語化」を主張したように、明治時代にさつさと日本語を捨ててさえば、この大戦争も避けられたはずだとまで志賀は言っている。

志賀は日本語の欠点をはつきりとは指摘していないが、「言語が文化の発展を阻む」という類いの議論において挙げられることが多いのは「語彙の貧しさ」だ。施光恒氏が著書『英語化は愚民化』で論じているように、日本人は「翻訳」により西欧の語彙を使いなれた国語に統合するという方法で、結果的には語彙の問題をほとんど解決してしまったのだが、外国の文献で学問を学ぶほかなかった時代の日本人が、日本語に対応する語彙が存在しないことに不便を覚えたというのは不自然なことではない。

② これらの他にしばしば目にするのは、「日本語は曖昧で非論理的」という主張である。物理学者の桜井邦明氏は『日本語は本当に「非論理的」か』という著作の中で、日本語の構造そのものが劣っているわけではないものの、今の日本語の使用法には非論理的な点が山ほどあり、これを改めなければ日本人が国際的な舞台で活躍することは難しいと述べる。桜井氏自身は日本語蔑視論者ではなく、論理的な言葉遣いを心がけて日本語をより豊かにしていくべきだという立場だが、例えば日本語の文章の英訳を試みると、元の日本語文がいかに曖昧で感覚的な表現に依存して組み立てられているかに気づくことが多いと指摘し、我々が日本語を論理的に使うための訓練としても、英語の表現に置き換えてみる作業が有用であると言う。実際に私も見聞きするのだが、ビジネスマンでも学者でも、「日本語より英語で考えたり書いたりしたほうが論理的になる」と率直に述べる人は少なくない。英語が得意なわけではなくとも、日本語に「曖昧さ」を覚え、英語に「論理性」を見出すというのが、一種の共通体験になっているようなのだ。

今回紹介するのは、そうした「日本語は非論理的だ」という実感が仮に偽りのないものであったとしても、それが日本語の「欠陥」を意味するわけではないのか、と思わせる研究結果である。

③ シカゴ大学の研究チームが二〇一二年に、『外国語効果——外国語での思考は意思決定バイアスを低減

する』という論文を発表した。いくつかの実験から成るこの研究が示しているのは、人間は母語で考えるよりも第二言語で考えたほうが論理的に判断できる場合がある、ということだ。

最初の実験は、英語を母語とし、外国語として日本語を学んでいるアメリカの大学生一二名を対象として行われた。学生の半分には、以下のような問題文が提示される。

「危険な伝染病が蔓延^{うつ}していて、このままでは六十万人の命が失われそうだ。その対策として、二つの薬品が開発されている。

薬品A：二十万人が確実に助かる。

薬品B：三分の一の確率で全員が助かるが、三分の二の確率で誰も助からない。

あなたならどちらの薬品を選ぶか？」

そしてもう半分の学生には、薬品の特徴の説明部分だけを少し変更して、

「薬品A：四十万人は確実に死ぬ。

薬品B：三分の一の確率で誰も死なないが、三分の二の確率で全員が死ぬ。」

と表現した問題文を提示する。

これらの文章は元々、D・カーネマンとA・トベルスキーの研究で用いられた有名なもので、どちらも意味としては全く同じことを言っているのであるが、前者の表現を用いたほうが後者の表現を用いる場合よりも、「薬品A」を選択する人が多くなることが知られている。論理的には同じ内容であるにもかかわらず、「二十万人が助かる」と言われるほうが「四十万人が死ぬ」と言われるよりも、感情的に好ましく思ってしまうというバイアスが存在するのだ。これはフレーミング効果と呼ばれる現象で、前者のような表現を「利得フレーム」、後者のような表現を「損失フレーム」と呼んでいる。

さて、シカゴ大の研究チームの実験では、学生の半数に「利得フレーム」、もう半数に「損失フレーム」の問題文が提示されるのだが、両グループはそれぞれさらに半数ずつに分けられていて、一方は問題文を英語で、他方は日本語で読まされる。つまり、「英語で利得フレームを読む学生」「英語で損失フレームを読む学生」「日本語で利得フレームを読む学生」「日本語で損失フレームを読む学生」が、四分の一ずつ存在するわけだ。

④ 実験の結果は興味深いものだ。英語で読んだ学生同士を比較すると、

かし日本語で読んだ学生同士を比較すると、

B のである。 A し

令和八年度 入学試験問題（一般選抜）

国語（その三）

つまり、母語である英語で問題文を読んだ学生においては「フレーミング効果」が発現し、通説通りの反応を示したのに対し、外国語である日本語で問題文を読んだ学生においては、フレーミング効果が見られなかったということだ。「利得フレーム」と「損失フレーム」の言っていることは論理的には全く同じなのだから、日本語で読まれた学生たちのほうが、「フレーミングに惑わされることなく論理的に意思決定を行った」ということになる。

研究チームは類似した実験を、英語を勉強している韓国の学生一四四名、英語を母語としフランスに留学してフランス語を学んでいる学生一〇三名に対しても行った。得られた結果も同様だ。いずれも母語で読んだ場合にはフレーミング効果が観察されたが、外国語で読んだ場合には観察されなかった。

この結果について研究チームは、「外国語で考えると、母語における場合のような感情的・直観的反応が作動しなくなり、ジュークリョを促す効果も表れて、結果的に意思決定バイアスが低減するのであろう」と説明している。

⑤ またこの研究チームは、フレーミング効果とは別に、S・ベナルチとR・セイラーが提唱した「近視眼的損失回避」という心理的バイアスをめぐる検証も行っている。

例えば、人が一ドルを持っている時に、「半分の確率で二ドル五〇セントに増えるが、半分の確率でゼロになる」という賭けに参加するか、賭けには参加せずにその一ドルを取っておくことを選ぶかを選択せるとする。賭けに参加して得られる金額の期待値は

C

だから、少なくとも機会が何度もある場合には参加したほうが得たと言えるのだが、多くの人は「損失に対する恐怖」の感情が強く働き、賭けに参加することを拒むのである。

研究チームは、英語を学ぶ韓国学生一四六名と、スペイン語を学ぶアメリカ人学生五四名を対象に、それぞれ架空の賭けに参加するかどうかを十八回選択させる実験と、実際に一五ドルの現金を与えて賭けに参加するかどうかを十五回選ばせるという実験を行った。先ほどまでと同様に、学生の半数は母国語、もう半数は外国語で実験に参加させられている。

結果は同様で、母国語の場合には「近視眼的損失回避」の感情が強く働き、賭けには参加しない傾向が強かったのに対し、外国語の場合にはより高い期待値にメリットを認めて、賭けに参加する傾向が高まった。

⑥ もちろんこの研究が示唆しているのは、ある特殊な状況下で、外国語を用いることが感情的・直観的反応を抑制し、「論理的にみても偏りのない判断」が導かれることがあるということに過ぎない。社会の中で直面する問題の全てに「論理」だけで立ち向かうことはできず、感情・直観・経験などを動員して総合的

令和八年度 入学試験問題（一般選抜）

国語（その四）

に判断を下すのが人間である。

重要なのは、「日本語よりも英語のほうが論理的だ」と感じた経験を持つ人がいるとしても、それが必ずしも日本語の欠陥を意味するわけではないのだという示唆を、この研究から得られるということだ。何しろ英語のネイティブスピーカーも、日本語で考えた時のほうが論理的に判断を下すのである。また、それが「感情や直観の働きの抑制」によるものだとなれば、見方によっては外国語を用いることの欠点として理解することも可能だ。

「外国語での思考」がもたらす効果は他にも様々なものがあるであろう。先の桜井氏が指摘するように、母語と外国語の間を往復することで、母語の正確な意味に改めて向き合うことになるという効果もあるに違いない。いずれにしても、日本語そのものを安易に「欠陥言語」とみなすのは控えたほうがよさそうだ。

参考文献 Kozuka, R. Hayakawa, S. L. & An, S. C. (2012). The foreign language effect: Thinking in a foreign language reduces decision biases. *Psychological science*, 23(6), pp.661-668.

（川端祐一郎「日本語は曖昧で非論理的な言語なのか？」『表現者クライテリオ』2018年11月号より一部改）

問一 波線部分ア「ロコツ」、イ「率直」、ウ「蔓延」、エ「ジュークリョ」について、カタカナで記されているものは漢字に直し、漢字で記されているものはその読みをカタカナで書きなさい。

問二 傍線部分1「外国語への『脱出』を良しとするような運動」について、筆者がその具体例としてあげているものを、①段落の中から二〇～二五字で抜き出して答えなさい（空欄の一マスは一字とし、句読点、中点、すべての種類のカッコも一字とみなす。以下同じ）。

問三 傍線部分2「欠点」における【点】、傍線部分3「指摘」における【指】の漢字を使った次の熟語のうち、当該熟語（「欠点」「指摘」）の用字法と異なる意味で使われているものを、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

【点】ア 要点 イ 採点 ウ 終点 エ 論点
【指】ア 指導 イ 指令 ウ 指圧 エ 指針

問四 傍線部分4「日本人は『翻訳』により西欧の語彙を使いながら国語に統合するという方法で、結果的には語彙の問題をほとんど解決してしまった」について、ここでの「方法」とは明治期の日本人の手によつてなされた、欧米諸語の新しい語彙や観念を日本語の中に適切に位置付けてゆく作業を指している。そのように考えたとき、これに関する具体的な事例としてもっとも適切なものを、次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 英語の「text」に対して、日本語で「取る」とする。

イ 英語の「text frame」に対して、日本語で「ライター」とする。

ウ 英語の「technology」に対して、日本語で「テクノロジー」とする。

エ 英語の「society」に対して、日本語で「社会」とする。

問五 傍線部分5「我々が日本語を論理的に使うための訓練としても、英語の表現に置き換えてみる作業が有用である」について、ここで述べられている「作業」の内容を別の言葉で言い換えた部分を[3]段落以降の文章の中から一五字で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部分6「バイアス」とは、統計学において特定の思考や判断が無意識に偏る現象のことを言う。この定義に基づいたとき、バイアスの事例として適切でないものを、次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 男女は平等であるべきだという信念を持つ上司が、性別によって部下の昇進有無を差別しない。

イ 自身の購入商品に関する良い口コミ記事を見て、間違いない買い物だったと安心する。

ウ 血液型と性格の関連性を信じる人が、血液型と性格の関連性を否定する情報を無視する。

エ 嫌いな先生の意見を、内容に関わらず間違っていると感じる。

問七 空欄 A と B のそれぞれに入れるべき文言を[4]

段落内の後続の文章から判断し、次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア 「利得フレーム」でも「損失フレーム」でも、「薬品A」を選択する割合は変わらなかった。

イ 「利得フレーム」でも「損失フレーム」でも、「薬品A」を選択する割合と「薬品B」を選択する割合はほぼ一対一であった。

ウ 「利得フレーム」を読んだ学生のほうが「損失フレーム」を読んだ学生に比べて、「薬品B」を選択する割合が有意に多かった。

エ 「利得フレーム」を読んだ学生のほうが「損失フレーム」を読んだ学生に比べて、「薬品A」を選択する割合が有意に多かった。

問八 空欄 C に入れるべき適切な金額を[5]段落の文章をもとに答えなさい。

問九 傍線部分7「見方によっては外国語を用いることの欠点として理解することも可能」について、どうしてこのように言えるのかを[6]段落の中から解答欄の形式にあうように抜き出して答えなさい。

問10 傍線部分8「日本語そのものを安易に『欠陥言語』とみなすのは控えたほうがよさそうだ」について、筆者がこのように考える根拠をまとめた。そうしたとき、解答欄の形式にあうように、本文全体から適切な語句を抜き出して答えなさい。

二、次の文章は、光源氏が須磨蟄居（謹慎処分）の後、許されて帰京し、異母兄の朱雀帝と語り合う場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

召しありて、内裏に参りたまふ。御前にさぶらひたまふに、ねびまさりて、いかでさるものむつかしき住まひに年経たまひつらむと見たてまつる女房などの、院の御時よりさぶらひて、老いしらへるどもは、悲しくて、いまさらに泣き騒ぎめできこゆ。

上も、恥づかしうさへ思しめされて、御よそひなどことにひきつくりて出でおはします。御心地例ならで日ごろ経させたまひければ、いたうおとろへさせたまへるを、昨日今日ぞすこしよろしう思されける。御物語しめやかにありて夜に入りぬ。十五夜の月おもしろう静かなるに、昔のことかきくづし思し出でられてしほたれさせたまふ、もの心細く思さるるなるべし。「遊びなどもせず、昔聞きし物の音なども聞かで久しうなりにけるかな」とのたまはするに、

A わたつ海にしなえうらぶれ姪の子の脚立たざりし年はへにけりと聞こえたまへば、いとあはれに心恥づかしう思されて、

B 宮柱めぐりあひける時しあれば別れし春のうらみのこすな

いとなまめかしき御ありさまなり。

院の御ために八講行はるべきこと、まづいそがせたまふ。春宮を見たてまつりたまふに、こよなくおよすげさせたまひて、めづらしう思しよろこびたるを、限りなくあはれと見たてまつりたまふ。御才もこよなくまさらせたまひて、世をたもたせたまはむに懼りあるまじく賢く見えさせたまふ。入道の宮にも、御心すこし静めて、御対面のほどにもあはれることどもあらむかし。

令和八年度 入学試験問題（一般選抜）

国語（その七）

注1 院……故桐蔭院。朱雀帝と光源氏の父親。
注2 上……朱雀帝。
注3 春宮……現在の皇太子のこと。この春宮の後見人は光源氏。
注4 入道の家：春宮の生母。

『源氏物語』②「明石」小学館より、一部改

問一 傍線部分a～eの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 次は、傍線部分1「参りたまふ」について説明した文章である。空白にあう言葉を答えなさい。

「参りたまふ」の「参り」は、終止形は「①」であり、「②」詞である。「たまふ」は「③」詞である。「参り」も「たまふ」ともに敬語表現であり、「参り」は「④」から「⑤」に対する「⑥」語で、「たまふ」は「⑦」から「⑧」に対する「⑨」語である。

問三 傍線部分2と傍線部分5の「恥づかしう」は、それぞれ違う意味で使用されている。説明として最も適切なものを、次の選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 傍線部分2の「恥づかしう」は、源氏の姿について言及したもので、「立派である」という意味である。傍線部分5の「恥づかしう」は朱雀帝が源氏に対して抱いた気持ちを示したもので、気恥ずかしいの意味である。

イ 傍線部分2の「恥づかしう」は、源氏の姿について言及したもので、「立派である」という意味である。傍線部分5の「恥づかしう」は朱雀帝が源氏に対して抱いた気持ちを示したもので、慚愧の思いの意味である。

ウ 傍線部分2の「恥づかしう」は、源氏の気持ちについて言及したもので、気恥ずかしいという意味である。傍線部分5の「恥づかしう」は朱雀帝が自身に対して抱いた気持ちを示したもので、自画自賛の意味である。

エ 傍線部分2の「恥づかしう」は、朱雀帝の気持ちについて言及したもので、気恥ずかしいという意味である。傍線部分5の「恥づかしう」は、朱雀帝が源氏に対して抱いた気持ちを示したもので、慚愧の思いの意味である。

オ 傍線部分2の「恥づかしう」は、朱雀帝の姿について言及したもので、「立派である」という意味である。傍線部分5の「恥づかしう」は、朱雀帝が源氏に対して抱いた気持ちを示したもので、源氏を誇りに思うという意味である。

令和八年度 入学試験問題（一般選抜）

国語（その八）

問四 次は、この作品の季節に言及した文章である。①と③は季節を漢字一文字で答えなさい。なお、旧暦の場合は、一～三月が春、四～六月が夏、七～九月が秋、一〇～十二月が冬である。②と④には、本文中の言葉を解答欄にあうように抜き出して答えなさい。

光源氏が須磨に蟄居した季節は「①」である。それは、「②」という言葉から分かる。また、光源氏が朱雀帝とともに語るこの場面の季節は「③」である。それは、「④」という箇所から分かる。

問五 次は、傍線部分4「よろしう」について説明した文章である。空白にあう言葉を答えなさい。

「よろしう」は「①」化しており、元々の言葉は「②」であった。「よろしう」は、「③」活用の「④」詞である。

問六 和歌Aと和歌Bは、国生みの話を基にして詠まれたものである。国生み神話が所収されている書物で、神田阿礼が口承したものを太安万侶が書き留めたという趣旨の序文がある作品名を答えなさい。

問七 須磨から帰還した源氏に対する①と②の反応を、本文中から抜き出し、その最初の五文字を答えなさい。

- ① 女房たち ② 春宮